

女性による無償の労働：パキスタンにおけるケア労働に対する評価

ジャワリア・カシフ（パキスタン）

家事や育児、介護といったケア労働は、人を育み能力を維持・向上するのに不可欠な役割を担っているにもかかわらず、無償労働であるという理由から、当然のこととみなされ過小評価されています。また、ケア労働が経済・生活水準の向上に貢献し、社会福祉に寄与しているからこそ、個人が有償労働に専念できるとも言えます。にもかかわらず、有償労働とは異なり、ケア労働がパキスタンの国家経済にもたらす金銭的な価値は、換算されていないのが現実です。国連開発計画 (UNDP) が 2016 年に発表した人間開発報告書によると、パキスタンの人間開発指数 (HDI) のランキングは 世界で 147 位でした。



24 時間 365 日働き詰めで無報酬

パキスタン統計局は、タイムダイアリー方式による全国規模のタイムユース・サーベイ（社会生活基本調査）を 2007 年に実施しました。国内初となるこの調査では、無償の育児、介護をはじめとする家事労働の負担に関する男女差について、データの収集が行われました。データ 2X（国連財団内に設立された協働的、専門的なアドボカシー・プラットフォーム）が 2018 年 3 月に発表した報告書 “Invisible No More? A Methodology and Policy Review of How Time Use Surveys Measure Unpaid Work”（仮訳：「可視化は進んだか？タイムユース・サーベイによる無償労働の測定方法と政策評価」）によると、無償のケア労働および家事労働における女性の負担が顕著であり、大きな課題であることが公式な統計上明らかになったということです。

パキスタンでは、夫が帰宅後、妻に対して開口一番「今日は一日何をしていた？どうせのんびりしていたのだろう」などと言うことがよくあります。同様に、女性に関して頻繁に聞かれるのが「彼女は働いていますか？それとも単なる専業主婦ですか？」という質問です。この 2 つの例からも、この国の社会全体が女性をどのように捉えているかが浮き彫りになります。また皮肉にも、世間一般に限らず、特に政策立案者がケア労働を正當に評価していないのが現状です。

もしも家庭内で、女性や主婦が料理、掃除、育児、看病、介護をはじめ普段は評価されることのない日常の雑多な家事を行えない場合、人を雇い有償で代行してもらうこととなります。これに対し、女性たちは全くの無償でこれらの仕事を一手に担っているのです。同じ家事労働の対価として、使用人には賃金の支払いを厭わないにもかかわらず、母親、妻、姉妹、娘には対価を払うことはありません。

パキスタンでは、女性が専業主婦として家事を完璧にこなしていても、勤労者とはみなされません。対価として報酬を得られる労働のみが評価されるのです。しかし、家庭を守り家族の世話をするのは最も大変な仕事です。もし母親、妻、姉妹、娘、義理の娘といった女性たちが家庭内で担うケア労働が有償であるとしたら、彼女たちの預金がどれほどになるか想像してみてください。

さらにこの国では、都市部よりも農村地域で暮らす女性の方が、より過酷な生活を強いられています。牛の乳搾りから納屋の掃除、薪運び、水汲み、料理、洗濯、家族の世話などの家事まで、さまざまな仕事をこなしているのです。

パキスタンの社会が陥っているジレンマは、他にもあります。その一つが、働く女性に対する無理解な態度です。義理の両親や夫などの家族は、女性が外で働いていても、同時に家事もこなして当然だと思っています。彼女がスーパーウーマンであるかのような錯覚をしているのです。この国では、男性が家事を分担することはありません。彼らは経済的に家族を支えさえすれば、自分たちの役目は果たしていると考えており、家事労働の負担を女性に押し付けています。

この国では、男性が女性と家事を分担しないことで、ある不利益が生じています。それは、高学歴の女性であっても家事のために専業主婦となり、その才能を発揮することなく無駄にしていることです。もし男性が家事を分担するようになれば、女性がキャリアを積む可能性も高まるはずですが、

パキスタンにおける賃金労働の平均的な勤務時間は午前 9 時から午後 5 時までで、週休 1 日か 2 日です。これに対し、家事を担う女性に休日はありません。昼夜を問わず、一日中働き詰めです。特に育児中は四六時中、子供の世話に追われ、子供が夜泣きをすれば寝る暇もありません。一方、

父親は一家の大黒柱であり、翌日の仕事のために英気を養う必要があるという理由で、誰にも邪魔されることなく十分に睡眠をとれるのです。



家族のケアは女性の責務、
自分のための時間などない

今こそ、パキスタンの社会に存在するジェンダー・ステレオタイプを打ち破らなければなりません。女性の負担軽減のため、家事を分担するよう男性を教育するとともに、女性に快適な環境と活躍の場を与えるような方策を、政策立案者が講じていかなければならないのです。女性を軸に、この社会は成り立っています。だからこそ、女性の労働は正當に評価されるべきです。女性の献身が家族を支えていることを、決して忘れてはならないのです。



パキスタンの農村部の女性の暮らしは、都市部よりもさらに過酷